

第127回古民家歴史部会・歴史探訪

「横浜散策18区シリーズ・第2回」

平成30年5月2日(水) 「港南区 せせらぎ緑道散策」

*集合：地下鉄上永谷駅(改札口) 9時50分厳守同時出発

*解散：藤ヶ沢バス停(鎌倉街道)

江戸時代、現在の港南区中心には武蔵と相模の国境が南北に走り、両側にいくつもの村がありました。その後、永野村、日下村、大岡川村の3村が誕生。これが現在の港南区のルーツと言えます。当時この地区は農村地域であると同時に、近代国家の礎の役割を担っていたのです。現在港南区は人口214,013人(平成29年9月1日現在)を擁し、区の中心地である上大岡周辺は横浜市の副都心と位置付けられています。

【参考資料】★散策コース「横浜」(昭文社) ★神奈川県謎解き散歩(新人物文庫) ★横浜地図帳・街の達人(昭文社) ★横浜・歴史の街かど(横浜開港資料館) ★港南区役所発行図書ほか

①上永谷駅前藤棚

昭和57年開設されたバスターミナル上に設置された藤棚。春から初夏にかけて咲く藤の花がバスを待つ人の目を楽しませてくれています。

②馬洗い川

上永谷と野庭の境のあたりで、「鎌倉下の道」と交差して、流れるのが「馬洗い川」です。

上流には滝があって、滝つぼは手頃な洗い場となっていて、旅人たちはここで馬を洗い、身じたくを整えて、鎌倉へ向かったことから、いつしか誰言うとはなく、この川を馬洗川とよぶようになりました。

③御嶽社(野庭神社)

元亀元年(1570)11月3日臼井左衛門胤知が、大和国吉野山から勧請したという。「新編相模国風土記稿」の上野庭付の項に「蔵王社」とあるのはこの社で、隣接の「蔵王山浄念寺」が明治維新まで、当社の別当寺であった。神明造の石の鳥居、嘉永4年建立の石灯籠一對の間に、急な36段の石段を上がると境内が開ける。境内の片隅に大山廻りの石仏がある。(「港南の歴史」より)

④蔵王山浄念寺

横浜の浄土宗浄念寺は、1564(永禄7)年、鎌倉臼居家第3代臼居左衛門胤知公により、建立されました。

⑤浄念寺の咳止め玄入坊

伝承

むかしなあ、上野庭の島田という所に、一人の旅の僧が訪れたそう。その僧の名前はな、玄入坊というたそう。

玄入坊がこの村を歩いていると、病人が多いことに気がついたんだ。昔の山深い里ではな、くらしは貧しくてな、天候が悪くて農作物がとれないとな、たちまち飢えに苦しんだんだとさ。

病気になっても、お医者にかかれない貧乏な暮らしに、若者は近くの戸塚あたりに働きに出て、村には年寄り子どもばかりになってしまったんだ。

「コン、コン」と、ひっきりなしに咳をしながら苦しむ農民を見て、玄入坊は何にもできない自分の力の無さをなげき悲しんだ。玄入坊は、人間はどんなに苦しくても、明日への希望と元気な体があれば、生きぬくことができるんだ。けどもな、この村には、その元になる希望と健康が失われているのじゃよ。玄入坊自身も、僧として旅の終わりを予感したのかも知れない。そこで村人たちを呼び集めてな、自分の決意を述べて、大きな穴を掘ってもらったとき。そしてな、その中に、自ら生き埋めになろうと入って行ったんだ。そして村人にな、次のように頼んだんだ。「私が穴の中に入ったら、土の中からお経を読む声のある間は、この竹の筒を通して一日三回、水だけを流しこんでもらいたい。そして、その経を読む声が絶えた時、私の願いは聞き届けられ、あなたたちの村から、咳をする人たちの苦しみがなくなるだろう」と言い残して、土の中に消えて行ったんだ。

村人は、最初は、見ず知らずの旅の僧のことばを、信じなかったんじゃが、命をかけてまでの不思議なふるまいと、玄入坊の言ったとおりの奇跡にびっくりしたんだ。そしてな、玄入坊にたいしてな、感謝と悲しみをこめて、塚を築いてな、その上に榊の木と、石の祠を建てて、後の世まで玄入坊の徳をたたえて、おまつりしたそう。そして、今でも咳に苦しむ人たちの、おまいりが続いているそう。

⑥迎陽隧道

明治41年県道の拡張工事に合わせて、村民と野庭の炭鉱業者が協力して自然石にトンネルを掘り、迎陽隧道と名付けました。現在のように近代的な改修工事が完成したのは、昭和53年です。

文責:神田恵仁



港南区

馬洗川せせらぎ緑道



全行程 : 3.8 km



① 駅前藤棚



② せせらぎ緑

② 馬洗川せせらぎ緑道



② せせらぎ緑道入



④ 浄念寺



⑤ 咳止め玄入坊



③ 御嶽社(野庭神社)

④ 浄念寺 ⑤ 咳止め玄入坊

⑥ 迎陽隧道

文化遺産収蔵センター

県警施設

温室

至港南台

至港南中央

至上大岡

至公田



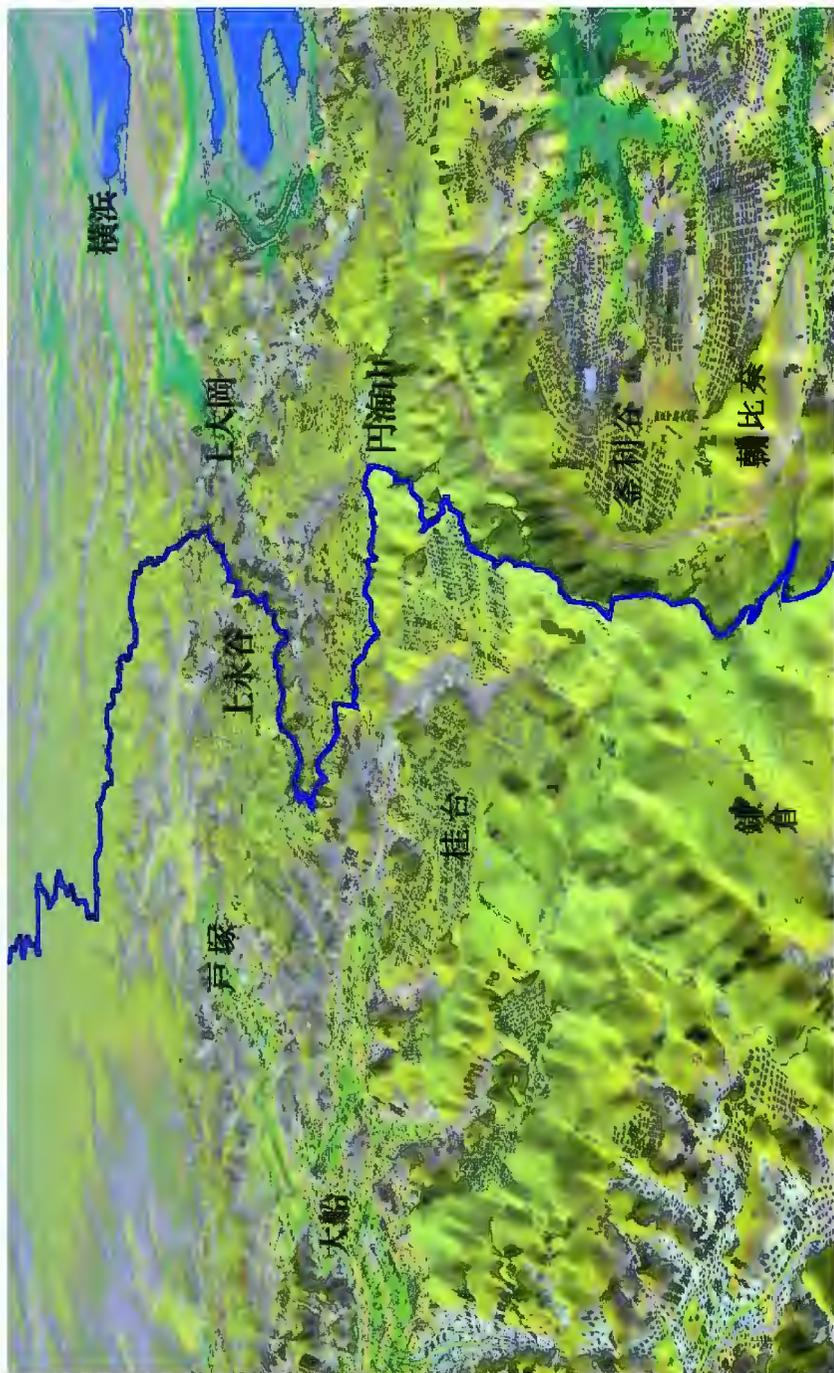
港南区の位置

横浜散策18区(2)

本郷ふじやま公園古民家歴史部会

dimson

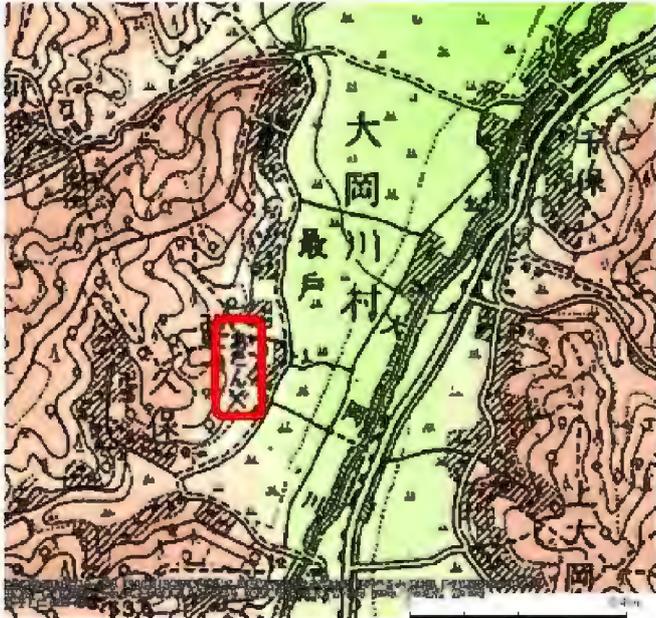
相武国境



石炭の分類

野庭で採れた亜炭





「あたん」の文字が見える地形図・
戸塚・1921（大正10）年測量、1925
（大正14）年発行



1942（昭和17）年 最戸にあった亜
炭鉱坑口 （画像提供：亀野哲也）

「亜炭は工業のエネルギー源としては質が低く、も
っぱら町工場やボイラーなど、小規模の燃料として
重宝されました。手掘りで、トロッコを使った採掘
でした」

横浜に「炭鉱」があった話を詳しく聞きたいです。第
二次大戦中まで上大岡や野庭で「亜炭」が多く採掘さ
れたそうで、現在千住院がある山の下も炭鉱だったそ
うです。（

横浜にかつて炭鉱があった・・・と聞いても首を傾げ
る人がほとんどだろう。炭鉱といっても三井三池炭鉱
（福岡）や常磐炭田（福島～茨城）、あるいは夕張炭
鉱（北海道）のような石炭を大々的に採掘する施設で
はなく、投稿者も書いている「亜炭（あたん）」と呼
ばれる炭化度の低い、石炭化する前の物質を小規模に
採掘する事業だった。

採掘現場の一つ、野庭は横浜市内の亜炭の生産地だっ
た。

横浜大空襲でも標的を外され、神社などがかつてのま
ま残っており、都市ではない田園の横浜の風情を残し
ている。

「（前略）昔は野庭で掘られていた亜炭を馬の蹄鉄を
作っていた鍛冶ヶ谷へ運ぶ為に、小菅ヶ谷経由で運ん
でいましたが、現鎌倉街道が明治10年に七曲り切通し
が出来、開通した事により、より近道で運びたい、又
野庭村より日野村を経て横浜との交流をしたいとの要
望が強くなりました」と『街づくりの歴史物語 こう
なんの歴史アルバム2』（港南歴史協議会）の中で記述
している。

馬の蹄鉄作りに、亜炭が使用されたことが明言されて
いる。